



あとがき



原子力機構の核図表2022年度版を作成しました。私は2000年から関わっており、これで6回目の作成で22年目となりました。振り返るとずいぶん長く関わっていると感じています。2000年当時は学位を取った直後の頃で、その後2001年から理研に出入りし、原子核質量模型の改良に取り組むとともに、同時に森田浩介さんが進めていた理研113番元素実験が開始しようという時分でした。その後私は2004年に原研に就職し、2005年に原子力機構と組織を変え、現在に至ります。核図表作成の22年間の前半は、取りまとめの片倉純一さんにデータを預ける $+\alpha$ の仕事でしたが、2014年版からは片倉さんの原子力機構退職に伴い、実験データの収集・評価も一手に行うようになり、核データ評価の一端を担うことになりました。この22年間の間に理研ではRIBFが稼働し、113番元素はニホニウムになり、原子力機構のキャンパスではJ-PARCが設置され、時代の変遷を実感しています。核図表の中では現在では原子核の数は3000個を超え、元素では（2000年版では109番元素マイトネリウムMtまでの記載でしたが）ニホニウムを含む118番元素までが記載されるようになりました。次の20年後はどのような景色を見ることになるのでしょうか。

小浦 寛之 2023年10月

日本原子力学会核データ部会

核データニュース編集小委員会

合川 正幸 (北大)

岩本 修 (原子力機構)

大塚 直彦 (委員長、IAEA)

金 政浩 (九大)

小浦 寛之 (原子力機構)

中村 詔司 (原子力機構)

丸山 修平 (原子力機構)

山野 直樹 (RADONet)